

【文学部 史学科】

論述試験

解答例（解答のポイント）

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

①

要約 400 字：

ヨーロッパを征服したナポレオンは、ヨーロッパ全域にわたる自身の帝国を、各国の国民を1つの連合体に統合し、法体系や原則、意思や感覚、見解や利益を共有する、アメリカ型あるいは古代ギリシア型の連邦政体を構想していた。

このようなナポレオンのヨーロッパ帝国構想は、現実にはヨーロッパ各地で反発や抵抗を招き、実効性が欠けていた。この構想自体は啓蒙主義の普遍主義（ヨーロッパは伝統と文化、宗教において何らかの共通性を持ち、普遍的であるという理念）に基づくものであったが、ウィーン会議後には、このような文化的普遍主義に代わって、政治化としてのヨーロッパという新しい現実が出現し、ヨーロッパは各国が共存をはかる実体的な枠組みとなった。

自分の意見 400 字：

1. ナポレオンのヨーロッパ帝国構想についての評価が述べられていること
2. ウィーン会議後の19世紀ヨーロッパのナショナリズムに言及されていること
3. 通説的（教科書的）なナショナリズムの出現と各国の対立・抗争に対して、国を超えた政治的規範としての「ヨーロッパ」のあり方について考察されていること
4. 現在形成されているEU統合についての展望が述べられていること
5. 現在のEU統合がなぜ、どのように可能であったかについて考察されていること
よ